—いい音、浦安(ここ)から—
浦安音楽ホール

URAYASU CONCERT HALL

浦安市・日本音楽財団
ストラディヴァリウスシリーズVol.2

スヴェトリン・ルセフ
ヴァイオリン・リサイタル

上田晴子（ピアノ）

2018.4/18（水）19:00開演

本コンサートチケット売上の全ては、浦安市文化芸術振興基金に積み立てられ、
市民の文化芸術活動の普及振興に使われます。

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

主催：浦安市　日本音楽財団
共催：浦安音楽ホール
助成：日本財団　公益財団法人朝日新聞文化財団

Program プログラム

クロード・ドビュッシー
ヴァイオリン・ソナタ ト短調
Claude Debussy : Violin Sonata in G Minor

I. Allegro vivo
II. Intermède. Fantasque et léger
III. Finale. Très animé

ヨハネス・ブラームス
ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ニ短調　作品108
Johannes Brahms : Violin Sonata No. 3 in D Minor, Op. 108

I. Allegro
II. Adagio
III. Un poco presto e con sentimento
IV. Presto agitato

＊＊＊

モーリス・ラヴェル
ヴァイオリン・ソナタ 第2番 ト長調
Maurice Ravel : Violin Sonata No.2 in G Major

I. Allegretto
II. Blues. Moderato
III. Perpetuum mobile. Allegro

カミーユ・サン＝サーンス
序奏とロンド・カプリチオーソ イ短調 Op. 28
Camille Saint-Saëns : Introduction and Rondo Capriccioso in A Minor, Op. 28

モーリス・ラヴェル
ツィガーヌ
Maurice Ravel : Tzigane

音楽を愛好する皆さま

スヴェトリン・ルセフ

私から今夜お届けするフランス音楽のプログラムをご紹介させていただきたいと思いますが、何よりもまず、この素晴らしい楽器を貸与してくださっている日本音楽財団に感謝申し上げます。皆様にも、私の最愛のパートナーであるストラディヴァリウス1710年製ヴァイオリン「カンポセリーチェ」の澄みわたる響き、瞬時に紡ぎ出される音色、そして、すべての音域からわき上がる力強さを堪能していただけることと思います。

クロード・ドビュッシーによるヴァイオリンとピアノのためのソナタは1917年に作曲されました。作曲家最後の主要な作品であるこの曲は、簡潔さでよく知られており、演奏時間はわずか13分です。私がパリ国立音楽院で師事したジェラール・プーレ先生の父親にあたるガストン・プーレのヴァイオリンとドビュッシーのピアノによって、1917年5月5日に初演が行われました。

ヨハネス・ブラームスによるピアノとヴァイオリンのためのソナタ第3番はとてもロマンティックで、ブラームスの3つのソナタの中で最も気に入っています。3つのソナタのなかで唯一4楽章構成であり、1886年から1888年の間に作曲されました。ブラームスはこのヴァイオリンとピアノのための名曲を友人のハンス・フォン・ビューローに捧げ、ビューローによるピアノと作曲家としても活躍したイェネー・フバイのヴァイオリンで1888年12月22日にブダペストで初演されました。

モーリス・ラヴェルは1923年から1927年にヴァイオリンとピアノのためのソナタを作曲しました。当時、ラヴェルはモンフォール＝ラモーリーというパリからそう遠くない街で暮らしていました。この作品は 3楽章から成りますが、全ての楽章の趣向が異なり対象的です。例えば2楽章は明らかに当時パリに住んでいたジャズ奏者の影響を受けている一方、最終楽章は技術的にもとても難しく、まさに活気溢れる楽章です。

カミーユ・サン＝サーンスはスペインの偉大なヴァイオリニストであり作曲家でもあるパブロ・デ・サラサーテのために技巧的な曲を1863年に作曲し、「ヴァイオリンとオーケストラのための序奏とロンド・カプリチオーソ イ短調 作品28」と名付けました。音楽的表現、活気と個性、たくさんの技巧が絶妙に混ざり合うこの9分の作品を、私は子どもの頃から今も変わらず気に入っています。

ツィガーヌはフランスの作曲家**モーリス・ラヴェル**によって書かれた10分のコンサート用の狂詩曲です。この作品は、影響力のあったヴァイオリンの巨匠、ヨーゼフ・ヨアヒムを大伯父に持つ、若きハンガリア人ヴァイオリニスト、イェリー・ダラーニに捧げられました。オリジナルの楽器構成はヴァイオリンとピアノまたはリュテアルです。リュテアルはプリペアド・ピアノの一種で、ハープとツィンバロム（打弦楽器）の間のような音が出ます。特に、ジプシースタイルの曲やピアノそのものの音にも良く合い、ストップレバーを引くことで、異なる音色を出すことができます。最近、幸運にもブリュッセルの楽器博物館に残る数少ないリュテアルとこの作品を録音しました。

Profile プロフィール

©Vahan Mardirossian

スヴェトリン・ルセフ（ヴァイオリン）
Svetlin Roussev, Violin

1976年、ブルガリアのルセに生まれ、5歳から同市の音楽学校で音楽を学び始める。高等音楽院でジェラール・プーレ、ドゥヴィ・エルリー、ジャン=ジャック・カントロフ等に師事。インディアナポリス、ロン=ティボーや、メルボルン国際室内楽コンクール等で受賞した他、2001年には第1回仙台国際音楽コンクールで優勝、併せてバッハ賞、駐日フランス大使賞、聴衆賞も受賞した。ソリストとして、これまでにユーディ・メニューイン、レオン・フライシャー、マレク・ヤノフスキ、チョン・ミョンフン、フランソワ=グザヴィエ・ロトなど著名な指揮者と共演している。日本では2009年にサントリーホールでチョン・ミョンフン指揮東京フィルハーモニー交響楽団と共演したほか、2011年にHakuju Hallで、2012年に浜離宮朝日ホールでリサイタルを行っている。指揮者チョン・ミョンフンの絶大なる信頼を得ており、同氏が音楽監督を務める、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに2005年に就任したほか、ソウル・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演コンサートマスターを2007年から2015年まで務めた。2008年にカントロフの後任としてパリ国立高等音楽院の教授に就任。2015年より、ブルガリアのソフィア・フィルハーモニー管弦楽団の芸術監督を務める。

ストラディヴァリウス 1710年製ヴァイオリン「カンポセリーチェ」
Stradivarius 1710 Violin Camposelice

このヴァイオリンは、1880年代にフランスのカンポセリーチェ公爵の手に渡ったことから「カンポセリーチェ」と呼ばれている。1937年にはクレモナ古楽器名器展にキューネ博士のコレクションとして展示された。日本音楽財団が購入する前は、30年間以上ベルギーのアマチュア奏者のもとで大切に保管されていたため、楽器の内側の状態はオリジナルのままである。

©S.Yokoyama

©三浦興一

上田晴子（ピアノ）
Haruko Ueda, Piano

東京芸術大学付属高等学校、同大学卒業、同大学院修了後、ロータリー財団奨学生として渡仏、パリ・ヨーロッパ音楽院卒業。1986年、ロン・ティボーコンクール入賞、1995年、日本国際ヴァイオリンコンクール最優秀伴奏者賞受賞など受賞。ソリスト、室内楽奏者として日、欧で演奏活動を行う。共演する演奏家は、J.J.カントロフ、P. ヴェルニコフ、O.シャルリエ、千々岩英一、小林美恵、オーギュスタン・デュメイ、スヴェトリン・ルセフ、 ブルーノ・パスキエ、堤剛、ミシェル・アリニョン、ニコラ・バルデイルー、エネスコSQ等。録音は、ALMより、カントロフとのCD「プロコフィエフ、シュトラウス・ヴァイオリンソナタ集」（レコード芸術誌準特選）、特選の「ドホナニ、エネスコ・ヴァイオリンソナタ集」「エネスコ、ブゾーニ・ヴァイオリン作品集」「ベートーヴェン・ヴァイオリンソナタ全曲集vol.1,vol.2」、ミシェル・アリニョンとのCD（レコード芸術誌準特選）、オクタヴィアレコードより千々岩英一との「ポエム」（レコード芸術誌準特選）、フランスのレーヴェルでL・コルシアとの「ミスターパガニーニ」、郷古廉との「ブラームスソナタ」など多数。現在パリ国立高等音楽院ピアノ科・室内楽科助教授。